

2011年度
NPO法人メイド・イン・ジャパン・プロジェクト
事業計画書

目次



- 代表所信03
- MIJPとは何か？04
- 事業指針と3カ年計画05
- MIJP新組織図06
- 部会の活動07
- 年間スケジュール13
- 収支計画14
- 新理事のプロフィール15

代表所信



この度の東日本大震災により被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。また災害復興に今もご尽力されている関係者の方々の活動を心より応援しております。

震災後いっそう低迷の度合いを深める地域モノづくりの環境を少しでも良くするべく、3ヵ年という限られた時間のなかで最大限尽力してまいります。

まずは組織全体の役割を見直し、本部組織の活動を明確化し、そして都道府県の支部を増やすことを大命題にします。その上で各支部が独立採算で活動できるような地盤作りに励んでまいります。

また今まで活動していただいた現行の支部はもとより、現在支部化にむけて活動している岐阜、沖縄、静岡の3県の基盤作りにまずは強く推進していきます。

株式会社とNPO法人の両代表という大任をお受け致しましたうえは、今まで以上にMIJPの発展に全力をつくしてまいります。

今後の新体制での活動におきましては、効果的で円滑な運営を行い、より発展していきたいと考えておりますので、これまで同様、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年8月3日

特定非営利活動法人 メイド・イン・ジャパン・プロジェクト

新代表 赤瀬 浩成

MIJPとは何か？



これからのメイド・イン・ジャパン・プロジェクト(MIJP)

【株式会社とNPO法人の役割】



2つの餅があって初めて鏡餅と言えるように、NPOと株式会社の2つがあって初めてMIJPです。ニッポンのモノづくりの足腰を強くするために、NPO法人の活動に参加する方々の裾野を広げる必要があります。

【NPO行動イメージ】

「魚を求める人」をイメージしてみてください

- ◆「魚を求める人」が魚を得るためには、以下の方法が考えられます。
 - a) 魚そのものを買うために、魚屋に行く
 - b) 魚を釣るための手段を得るために、釣具屋に行く

MIJPIは、釣具屋になりたいと考えます。

- ◆MIJPでは魚を提供しませんが、以下のものを提供します。
 - a) 魚を釣る道具、情報、ノウハウ
 - b) 魚を釣る仲間
 - c) 魚を釣る楽しさ、モチベーション

MIJPIは、魚を釣る楽しさを知る人が増え、ニッポン各地に広まることこそが、「地域の元気」につながるものと強く信じています。

ニッポンの地域を元気にするためには、「地域が主役」になるコンテンツが大切です。
充実したコンテンツの提供をNPO法人MIJPは継続的に行っていきます。

事業指針と3カ年計画



NPO 法人 メイド・イン・ジャパン・プロジェクト指針

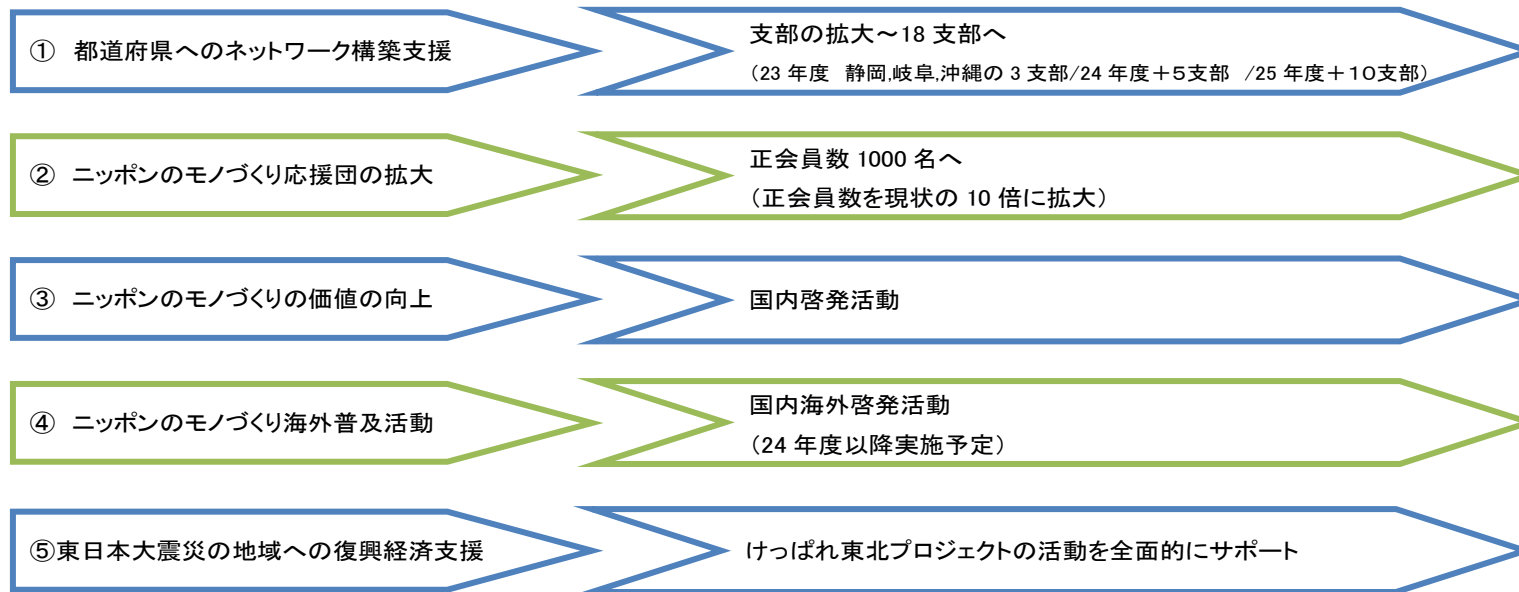
【 ヴィジョン 】

地域のモノづくりを通し、地域を豊かにする

「広げようモノづくりのネットワーク ひとりひとりの思いがつながりあい 地域を、みんなを、ニッポンを豊かにする」

【 行動指針 】

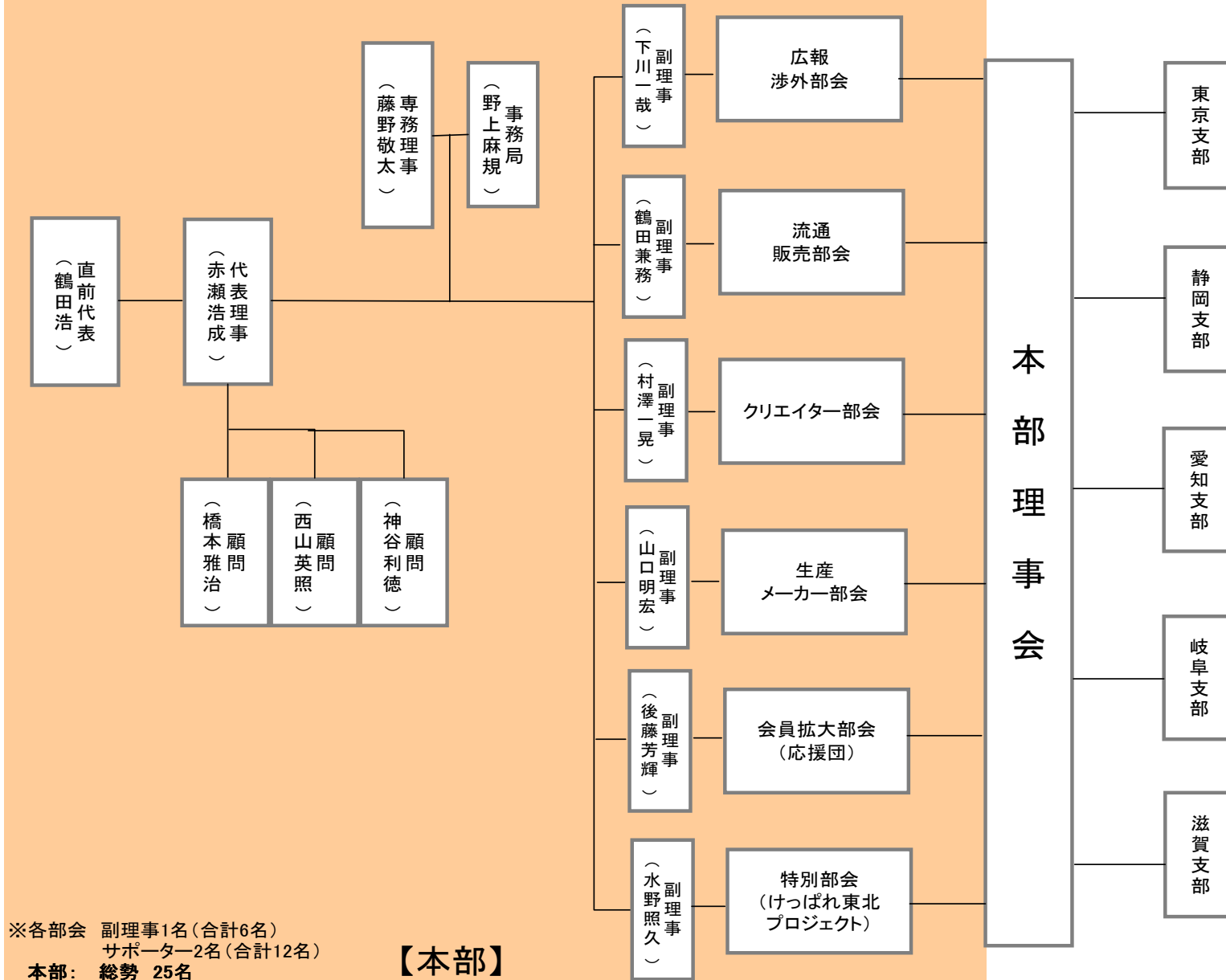
【 3カ年方針 】



MIJP 新組織図



NPO法人MIJP 新組織図



※各部会 副理事1名(合計6名)
 サポーター2名(合計12名)
 本部: 総勢 25名

【本部】

部会の活動－広報渉外部会



担当副理事 下川 一哉

□ ビジョン

MIJP全体の活動を図るため、内外のコミュニケーションを活性化するとともに、MIJPのブランディングを強化する

□ 活動概要

① 広報活動支援事業

MIJP本部ならびに各支部が、自らの活動をメディア、市場、産業界、関係省庁・地方自治体などに対して広報活動を実施する際に適切な支援を行う

② セミナー事業

①の活動を円滑に進めるに当たり、MIJP本部ならびに支部の広報担当者のスキルアップを図るために、セミナーや勉強会を適宜開催する

③ ブランディング事業

MIJP本部ならびに支部の広報活動を円滑に進めるため、広報活動および関連事業に不可欠なブランディングのツールを開発し、その使用の浸透を図る

□ 活動計画

	活動内容	実施時期(予定)
① 広報活動支援事業	各専門部会ならびに各支部からの広報ニーズの吸い上げ	2011年6月～8月
	MIJP本部のホームページの見直しと新規立ち上げ	2011年9月～11月
② セミナー事業	広報活動に関するセミナー	2012/1/1(次年度、次次年度も開催予定)
	ブランディングに関するセミナー	2012年3月(同上)
	コミュニケーションデザインに関するセミナー	2012年5月(同上)
③ ブランディング事業 (2年目以降)	本部ならびに支部がリリースするドキュメントに関するデザインのルール作り	2012年6月～12月
	簡便なデザインマニュアルの作成	2013年1月～6月
	デザインマニュアルの基づく広報活動の開始	2013年7月～

部会の活動－流通販売部会



担当副理事 鶴田 浩

□ ビジョン

「日本の名店チェーン」の創出

日本、地域生活文化の向上の為、上質な日本製の流通を国内外に促す。
志を共有している全国の流通業の強固なネットワークを創出する。

□ 活動概要

- ① 情報交換や気づき、学びの場を創造し、共有を通してネットワークを育めるセミナーの開催
- ② 展示会(NIPPNSAN等)への合同参加および産地見学会の開催
- ③ けっぱれ東北プロジェクトの協力と各店舗での販売

□ 活動計画

＜目標＞ 3カ年で流通関連法人会員100社(150店舗) 各都道府県3社
流通部会の開催(月1回・第2水曜日)

	活動内容	実施時期(予定)
①	セミナーの開催	11月(全国大会にて共同開催)、1月、3月、6月
②	展示会及び産地見学会	11月、6月
③	けっぱれ東北プロジェクトの協力	今年度参加店舗目標数: 20店舗

部会の活動ークリエイター部会



担当副理事 村澤 一晃

□ **ビジョン**

「マンパワーの構築ーモノづくりの為に必要なひとつづくり」

□ **活動概要**

- ① <クリエイターは地域を繋ぐ> 地場では完結しない次世代モノづくりステージの整備
- ② <クリエイターはテーマを掘り起こす> 今できる事から次にしなければならない事のテーマ提案
- ③ <クリエイターは人材育成に関わる> 学生／インハウスデザイナー／職人などの次世代モノづくり人の育成

□ **活動計画**

	活動	具体的活動内容	実施時期(予定)
①	マッチングを期待するメーカー会員 獲得の背景作り (広報部会との連動)	会員クリエイターのデータベース化	1年間を通しての継続作業
		各支部クリエイターとの関係強化	11月までに既存支部との意見交換 (全国大会までに)
②	・クリエイターのニーズ確認 ・地方産業のニーズ確認 (流通販売&生産メーカー部会 と連動)	定期的な勉強会の開催	※会員数がある程度増えた2年目 以降実行
		地方産業とのコラボテーマ提案	当面は支部交流と連動
③	・大学の賛助会員化促進 ・学生の就労支援 ・次世代会員の掘り起こし (会員拡大部会と連動)	大学／専門学校等の教育機関との ネットワーク作り	1年目は3校を目標
		学生とのワークショップ開催	全国大会以後2回程度 (11月以降)

部会の活動－生産メーカー部会



担当副理事 山口 明宏

□ ビジョン

産地・産業を動的な社会とし、存在価値を高めること

□ 活動概要

- ① 既存事業の継承とMIJP資源活用による、ニッポンのモノづくり活性化
- ② 国内産地・メーカーをサポートし、産業振興と事業継承の推進
- ③ 社会的欲求に基づく国内資源及び産地・産業活性化事業の推進

□ 活動計画

<指針>参加者全員プレーヤーの原則

<目標>ニッポンのモノづくりの基盤づくりと育成

目的	活動内容	具体的活動内容
①	ニッポンのモノづくり 活性化事業 ～NIPPONSANワーク ショッププログラム	1. NIPPONSAN事業推進と並行して、概念を共有する顧客参加型(ワークショップ)を事業化 2. ワークショップ登録店(法人会員)向けコンテンツ作りと募集説明会の開催(年3回) 3. 登録店フォローシステム及び登録店顧客の個人会員・サポーター化制度の確立 4. 3カ年計画として持続的な事業参加登録店30店舗を目標とする ※各部会及びMIJP(株)、ジカバニッポンとの連携要。
②	産地産業振興事業 ～ニッポン・マテリアル・ プロジェクト	1. 総務省日本標準産業分類に基づく国内素材に限定したプロジェクトとして事業化 2. THE COVER NIPPON内における産地展開催へのサポート 3. 現行NMP事業の説明会・見学会開催で各産地へ告知集客
③	鳥獣対策産地振興事 業 ～ MATAGIプログラム	1. 具体的な産地資源活動事例をもとに支援スキームとホームページの見直し 2. 各被害産地の声を聞くセミナー・相談会の実施(農水省鳥獣被害対策室との連携) 3. 支援プログラムに沿った鳥獣被害対策による獣皮有効資源化事業の推進 ※行政主導と町民自治の二通りの入り口を想定すること ※先行する関連支援事業との連携が必要

部会の活動－会員拡大部会



担当副理事 後藤 芳輝

□ ビジョン

日本のモノづくりを応援する人々を増やすことで、各地の産業の活性化を目指す

□ 活動概要

- ① 一般消費者にモノづくりに触れる機会を提供することで、モノづくりファンを増やす
- ② 個人正会員数を1年間で300名に増やす

□ 活動計画

活動	具体的活動内容
ワークショップ、公開講座 工場見学(月1回ペース)	セグメントに分類し、そのニーズの調査やアプローチ方法の確立 初年度ターゲット (A) 20～30代の女性 (B) 子供/ファミリー向け (C) シニア層
	NBMメンバーを積極的にMIJPの活動に取り込む
Facebook, ツイッター、ブログ等の活用	消費者と作り手、流通、クリエイターとダイレクトに繋げる手段の確立
MIJP個人会員へ誘導するための 仕組みやインフラ作り	事務局(広報渉外部会)と連携して、MIJPの宣伝方法や効果的な 登録システムの検討

特別部会ーけっぱれ東北プロジェクト



担当副理事 水野 照久

□ ビジョン

10年後の東北被災地地域のモノづくりの再生支援をおこなう

□ 活動概要

- ① 東北被災地域(宮城・岩手・福島)及び周辺地域の、モノづくり産地、メーカーのための「流通支援」「産業支援」「広報支援」を行う
- ② 支援金を3か年で1億円集める
- ③ 「東北人の東北人による、東北人のためのモノづくりネットワーク」の組織形成を支援する

□ 活動計画

活動	具体的活動内容
「流通支援委員会」: 売る	・「B to B 展示会への出展」年間2回・・・IFFT(6月・11月) ・「B to C 催事・物産展の出展」年間4回・・・各種商業施設
「産業支援委員会」: つなぐ	・「東北の支援先の情報収集、調査、募集活動。」・・・地域とのパイプづくり ・「各種マッチング支援活動」・・・モノづくり、設備、技術など、各種のマッチング支援 ・「ネットワークの組織形成」・・・モノづくりネットワークの組織形成の礎としての活動
「広報支援委員会」: 伝える	・「けっぱれHPの運用」・・・支援金情報、委員会活動報告の開示、管理 ・「参加東北メーカー、産地の紹介」・・・産地のアーカイブとして情報を整理する つなぐ

年間スケジュール



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
広報渉外部会	総会	本部HP見直し			全国大会		セミナー		セミナー		セミナー	デザインルール策定	
		支部メンバーと意見交換											
流通販売部会						セミナー		セミナー		セミナー			セミナー
						マッチング							マッチン
クリエイター部会			クリエイターのデータベース化										
		支部のクリエイターと意見交換				ワークショップ				ワークショップ			
生産メーカー部会		鳥獣対策産地振興事業 セミナー											
				ON	MATAGI		NIPPON		MATAGI	MATAGI	NIPPON		
会員拡大部会	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ		
		イベント・交流会・ワークショップの提供、NBMとの連携											

2011年度 収支計画



自 2011年7月 1日
至 2012年6月30日

収入の部			支出の部		
科目	実績金額(2010)	予算	科目	実績金額(2010)	予算
会費本部徴収分	法人 1,626,437	法人継続 1,550,000	事務費	9,099,871	4,507,190
		法人新規 4,400,000	会議費	318,340	2,580,000
	個人 350,000	個人継続 350,000	各部会事業費		2,810,000
		個人新規 3,000,000	利息	84,793	
事業収入	2,670,662	22,116,800	事業費	11,326,557	20,682,437
補助金収入	16,289,070				
その他	14,912				
合計	20,950,884	31,416,800	合計	20,829,561	30,579,627

新理事プロフィール



赤瀬 浩成
(新代表)

岡山県出身。おかやま晴れの国大使。
婚礼ダンスメーカーの2代目として生まれ、約20年間の家業経営で婚礼ダンスメーカーから日本でも有数の総合家具メーカーに育て上げる。
また、同時期にインテリアショップの経営も手掛け、12店舗を擁する企業に成長。
現在は弟に社長の座を譲り、自ら設立したメイド・イン・ジャパン・プロジェクトの運営に尽力している。



村澤 一晃
(クリエイター部会 副理事)

1965年東京生まれ。
垂見健三デザイン事務所を経て、1989年イタリアに留学。
1990年よりセルジオ・カラローニ デザイン建築事務所(ミラノ)に勤務。
1994年、ムラサワデザイン開設。
「デザインは生活や行動のすべての中にある」を信条とし、モノづくりの現場へ足を運びながらのデザインを展開。これまでに国内外150以上の工場を回り、生産背景を活かしたブランド構築へも関わっている。



藤野 敬太
(専務理事)

1973年東京生まれ。大学卒業後、会計事務所系コンサルティング会社を経て、現在大手アセットマネジメント会社で、ファンドマネージャーとして日本株の年金ファンドの運用に従事。中小型株式のファンドの運用担当時には、多い時で毎年400件の取材活動を実施。その過程で、モノづくりを中心とした産業の奥深さと中小企業の層の厚さが日本の強みであることを実感する。



下川一哉
(広報渉外部会 副理事)

1963年、佐賀県生まれ。1988年、早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。同年、日経マグロウヒル(現・日経BP社)入社。2008年より「日経デザイン」編集長。経済産業省や特許庁などのデザイン関連委員、企業、自治体、デザイン団体主催のデザインコンペの審査員、「Design Channel」「Tokyo Award」などデザイン情報テレビ番組のコメンテーターを務める。



山口明宏
(生産メーカー部会 副理事)

東京都出身。皮革タンナー山口産業株式会社専務取締役。革職人の傍ら、国内メーカー・デザイナー、そして小売店間の様々な交流を円滑に行うため、2010年日本製造者協議会を設立し事務局として活動。皮革販売サイト「革創庫」の運営をはじめ工場見学会の開催では、小学生から百貨店バイヤーまで年間2,000人の見学者に本革の魅力を伝える活動を行う。墨田区ものづくりフェア実行委員、革のまちすみだ会代表を通じて、墨田区皮革産業を動的な社会とし価値向上に努める。



後藤芳輝
(会員拡大部会 副理事)

東京都出身。
1996年、New Yorkに空手指導のために渡米。その傍ら、米国ホフストラ大学にてMBA取得後、豊田通商アメリカにて鉄鋼の輸入販売に従事。日本の鉄鋼、自動車業界の徹底的に合理化されたものづくりとSCMを経験し、日系企業の海外生産や新規進出をサポート。現在ステレス貿易業に従事。14年間の海外生活を経て、日本の伝統文化や製品を海外へ発信するために第2期NBIM講座を受講し、日本のモノづくりを応援すべく活動中。

新理事プロフィール



鶴田浩
(直前代表・流通販売部会 副理事)

1963年愛知県豊明市に生まれ。
大学卒業後、建築現場監督からはじめ設計監理業務を経て建築・空間プロデューサーとして従事。その間、米国・EU諸国・アフリカを1年放浪の旅に出、日本の素晴らしさに気づく。2002年独立し、地域の生活文化の向上をめざした提案型スタイルショップ「REAL Style」を名古屋にオープン。2005年Designers Week in Nagoyaの立ち上げに参画。更に“10年後の日本のものづくりの為に”2006年NPO法人メイド・イン・ジャパン・プロジェクトを立ち上げ、全国のものづくりネットワークを構築に尽力している。



橋本雅治
(NPO法人MIJP顧問)

大分県出身。
慶應義塾大学法学部政治学科を卒業後、キヤノン販売株式会社入社。1987年同社を退職。家業の結婚式場を継ぎ再建に尽力。1992年に株式会社マルマン入社。時計事業部長、取締役などを歴任。95年11月に退職。同年12月、株式会社アイデアインターナショナルを設立、代表取締役に就任。大学在学中にパワーリフティング全日本学生チャンピオン経験あり。



水野照久
(特別部会 副理事)

・愛知県名古屋出身。
1968年 家具小売店の2代目として生まれる。
銀行勤務を経て、1991年社業を継承する。現在、それぞれ別のコンセプトの家具店、インテリアショップを現在市内で2店舗、楽天で1店舗を運営している。
インテリアショップ「CONNECT・コネクト」では、自社オリジナルと国内有数の日本メーカーの製品のみを取扱い、日本の優れたモノづくりを紹介している。



西山 英熙
(NPO法人MIJP顧問)

東京藝術大学卒業後、日産自動車に入社し、「サニー」「ダットサン」等のデザインを担当。
1973年に独立し、西山デザインアソシエイツ設立。
CI開発やプロダクトデザインからユニフォームデザインまで幅広く手掛ける。2003年岐阜県オリベデザインセンター「オリベ想創塾」塾長に就任。地場の様々なモノづくりに携わり、デザインによる地域産業支援を行う。2011年よりMIJP(株)の顧問に就任。



神谷 利徳
(NPO法人MIJP顧問)

愛知県西尾市出身。
1987年に内装設計の「神谷デザイン事務所」、1994年に家具や照明を製作する「ノーリ・インターナショナル」を設立。これまでに店舗や商業施設など1000件以上を手掛け、設計デザインやプロダクト製作、店舗運営コンサルティングまでトータルサポート可能な体制を整えている。また店舗デザイン以外にも、地域再生事業や文化面の活動にも力を注いでおり、その手腕を買われ、「国際陶磁器フェスティバル美濃'11」のプロデューサーに就任。